

女子学生の私語に関する人間関係論的一考察

小林 良夫

まえおき

女子学生に講義をしたりして思うことの1つに、私語の問題がある。

とって、最近のそれは女子学生に限らないらしい。平成3年3月29日の朝日新聞も、社説「大学が大学らしく振る舞うと」の中で、単位認定という厳かな事実に対する学生や親の甘さを指摘した後で、「いま、大学の先生の大きな悩みは教室での私語。しばしば講義が成立しないほどだという」と述べている。

しかし、私語発生^{ひん}の頻度において女子の方が男子よりも多いこと。①また、男子学生が「一度注意されるとその時間中は静かである」②のに対して女子の場合はそうではないなど、いくつかの点で差があるように思われる。

そこで本稿では、なぜ男女の間にこのような差がみられるのかということ、仲間集団とのかかわりを中心に考えてみようと思う。

というのは、女子学生の私語が等質集団の力学に深くかかっていると思われること。またその研究が、追試をふくめ女子短期大学の教師において可能なこと。さらにそれが、個人の興味を満足させるだけでなく、「真理が、問題の解決と同義である」③限り、私語対策樹立の必要に迫られている大学の現状にプラスすると考えたからである。

とって、集団形成にみられる男女差などについてのデータを十分持ち合わせているわけでも、また、グループ・ダイナミックスに詳しい

わけでもない。したがって、研究が推測と偏見に満ちた内容に終わる虞がある。それだけに、大方の忌憚^{たん}のない御批判を切にお願いしておきたい。

1 私語とは

私語とはについて辞書は「ひそひそばなし」、「ささやくこと」、「whispering」と記している。いうまでもなく、ひそひそばなしは私的な表現活動の1つであるからとやかくいったり、いわれたりする筋合いのものではない。問題となるのは、話し合うべきでない場所や時間帯にささやき合うこと、つまり、公的な場における雑談である。

本稿では、講義中における学生相互の雑談を私語と定義して考察を進める。

なお、その私語は小・中学校よりも大学や幼稚園・保育所に多くみられ、しかも大学においてみられるようになったのは大学紛争後で、④特に最近それが目立つようになったといわれている。

2 私語の及ぼす影響

私語がもたらす影響にはプラス、マイナスの両面がある。たとえば、女子高校生の51%がいうように「友だちにわからないところを尋ねるのだから授業中のおしゃべりは必要」⑤な場合だってあるからである。しかし、一般的にはマイナス面に作用する場合が多い。

その主なものとして、講義の円滑な進行を妨げる。志を持って勉学に励む学生に迷惑をかける。自分本位な性格やルール軽視の傾向を助長する。などの諸点をあげることができるが、わけでも女子短期大学における私語の放置は、悪しき母親モデルの形成に手を貸すことになりかねないだけに、私語発生の原因究明及び防止策の構築は急がねばならない。

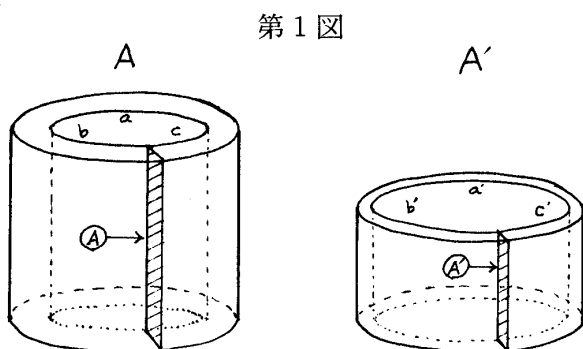
3 女子学生の仲間集団にみられる特徴

「まえおき」において述べたように、筆者は女子学生の私語と仲間集団の力学とは大いに関係があると考えている。では、その仲間集団はどのような特徴を持っているのであろうか。

いうまでもなくわれわれは社会的人間であり、その各々は日々公式集団あるいは非公式集団に所属して生活している。

当然のことながらその所属集団には、自他のグループを区別したり、所属メンバーを統制したりする規範や準拠枠が存在する。しかしそれは、明文化されていないのが一般的である。とはいうもののメンバーへの規制は強く、しかも、その規制を女子の方が男子よりも強く受けるようである。

そこでその理由を明らかにするため、前記準拠枠を囲障にたとえて考えてみる。拙論は、女子の囲障は男子のそれに比して高く、厚く、そして硬いという前提に立っている。そのことを図によって示そう。



第1図のAは、a、b、cの3名よりなる女子のグループを、図A'は、a'、b'、c'の3名よりなる男子のグループを、またⒶ、Ⓐは囲障

の断面をそれぞれ示す。

図からも知られるようにAの囲障は、A'のそれよりも高くそして厚い。このことは、Aの方がA'の方よりも内部からの脱出及び外部からの侵入を困難にすると同時に、囲障内で生活するメンバーに安心感を与えたり、同士間の結びつきを強めたりするのに役立つ。

といって、そこで生活するメンバーのすべてがいつも満足し、安定した状態にあるとは限らない。仮にa及びa'が所属集団に不満をいだいて離脱を決意したとする。その場合両者の間には、おそらく次のような行動差がみられるに違いない。

すなわち、a'は容易に所属グループから抜け出て、他の男子グループに加入させてもらうであろう。というのは、所属グループの囲障が低いので簡単に^ゆ越することができるし、また、転出後加入を希望するグループも今までのそれと類似した構造を持っているからである。

これに対しaの場合は、囲障が高くかつ堅固であるので^ゆ越はおろか他のグループへの参入をも困難にする。そこで、これらのことを無視あるいは考慮することなく離脱を強行すると当然なことにaは行き場を失い、ついには、人工衛星のようにAの周辺を廻り続けなければならないことになる。

このように囲障の構造差は、その中で生活する人々の行動に影響を及ぼす。事実、友人ができない。仲間外れにされたなどといって学生相談室を訪れる学生のほとんどが、人工衛星のような状態にある人たちなのである。

だから彼女らは、このようなリスクを冒してまでグループから抜け出ようとしないばかりか、一旦加入したグループに止まって義理に生きようとする。ここに女子学生が、男子学生以上に友人との関係に気を配ったり、悩んだりする理由があると解されるのであるが、このことについては後述する5「集団が私語に及ぼす影響」のところでも詳述するので、その前に、女子学生のグループはどのようにして形成されるかについて一瞥しておく。

4 グループ形成のプロセスとその実態

山下俊郎^⑥は、グループ形成の内的条件として「性、年齢、心身の発達程度、性格」などの類似をあげ、また、このようにして作られたグループの中で形成される仲間意識は、第1表のような段階を経て発達すると田辺敦子^⑦はいう。

第1表 対人関係の発達

区別	学年			中学校			高校
	4	5	6	1	2	3	1
家族	75	66	62	52	21	21	15
中間的	16	24	25	22	39	38	29
仲間	9	10	13	26	40	41	55

注1. 学年を除き数字は%

2. %は児童・生徒と一緒にいたいと思う集団比

では、女子短期大学生（以下女子短大生と略記する）の場合はどうであろうか。このことを明らかにするため女子短大生204名を対象にして、「自由着席形式で講義を受けるときの隣席者はだれか」について調査してみた。その結果を、川瀬啓子^⑧及び男子学生との比較において表示したのが第2表である。

その結果において、筆者と川瀬啓子との間に

第2表 大学生にみられる仲間作りのきっかけ

隣席者との関係	調査者	小林	川瀬	小林
	対象者	女子短大生1、2年 204名	女子短大生 58名	男子学生1、2年 209名
出席番号が近い人		14	16	4
出身高校が同じ人		6	10	12
通学経路が同じ人		10	10	8
偶然に知りあった人		14	12	19
友人が紹介してくれた人		2	13	5
声をかけてもらっているうちに親しくなった人		13	7	7
なんとなく気が合う人		21	13	12
サークル活動などの仲間		6	12	13
自分の方から声をかけて友達になった人		10	4	8
同じ苦しみの体験を共感しあった人		2	3	4
その他		2	0	8

注. 数字はすべて%

若干の相違がみられるが、総じて女子短大生の場合、男子学生に比し「出席番号が近い」「通学経路が同じ」など物理的・心理的に近い距離にある者と結びつく、つまり田中熊次郎^⑨がいう「相互接近型」と、「声をかけてもらううちに親しくなった」「なんとなく気が合う」など偶然的、感情的な要因に基づく「同情愛着型」が多いのに対して、「同じ体験に共感して」「サークル活動を通して」など積極的あるいは建設的ともいえる「尊敬共鳴型」の少ないことが知られる。

このことは、一見彼女らの結びつきの弱いことを予想させるが、結婚式のゲストとして招かれている者の多くが「相互接近型」の仲間であることを考えるとき、むしろその結びつきは強いといえそうである。

では、なぜ「出席番号が近い」と仲間になり易いのであろうか。このことについてはザヤンス Zajonc、フェスティンガー Festinger、ウォールスター Walster、バーン Byrne らの説明に詳しい。

たとえば Festinger (1950)^⑩らは、隣接性と好意性が相関する理由として

- a 相手の近くにいると、相手との接触を行うきっかけが容易に得られる。

- b 接触や相互作用を通して、相手の魅力的な特徴を知ることが容易となる。
- c 相手の近くにいて顔をよく見ていると、自ずから相手になじむようになる。

などの諸点をあげている。

上述のことは、女子短大生の場合にもあてはまる。したがって、彼女らの仲間集団はその規模において小さく、少人数の等質集団になりがちとなる。その実態は、筆者が行った「いつもあなたと行動を共にしている仲間は何人か」という調査結果（省略）に詳しい。

4 集団がメンバーに及ぼす影響

前項において述べたように女子短大生のグループは、女ばかりの気心の知れた者同士による小規模等質集団であるので、そこには多くの特徴が見られる。すなわち、まとまりやすい。遠慮や緊張を欠きやすい。閉鎖的になりやすい。仲間重視の発想をしがちであるなどがそれである。

このことは当然に、メンバーに有形・無形の圧力を加える。その典型を突っ張り少女の掟^⑩、すなわち、a 先輩には敬語を使う。b 半突っ張りはしない。c 呼び出しには必ず応じる。d 退会するときは袋たたきにされるなどに見ることができる。が、仮にこのような直接的圧力が加えられなくても、グループの特徴を感知している彼女らは、仲間外れに発展するかもしれないメンバーからの非難、白眼視、嘲笑を恐れての同調や追従に走りやすいので、勢いその集団は閉鎖的になっていく。

とって、集団が悪しき面にのみ作用するものでないことはいうまでもない。にもかかわらずマイナス面に重点をおいて記述したのは、不本意ながらも友人に同調して私語に至る学生が現存するのに加えて、私語者への対応を考えようとするとき集団力学の実際を知っておく必要があると考えたからに他ならない。

5 集団が私語に及ぼす影響

上述した集団の力学は当然に私語の発生に影

響を与える。そのことについて若干敷衍する。

筆者は、前項後段において「不本意ながらも友人に同調して……」と述べた。これは、講義中の私語はいけないと承知している学生が、例えば友人の質問に答えるうちに私語をすることになってしまった場合をさしているのであるが、その背景には、友人の質問に応じないと友人から非難されたり、疎外されたりする虞れがあるとの危惧、いいかえると、今まで通りの友人関係を維持していきたいという願望の存在を意味する。

その願望あるいは葛藤の好例を次の証言や資料にみることができる。すなわち、ある女子大学生は「私語をしている子に注意しようと思ったりすることもあるが、後でカッコつけちゃって、なんていわれ、ウツカリすると仲間外れにされちゃいそうなのでグット我慢してやめとくんです」^⑪と述べ、また、私語学生に対する一般学生の

第3表 私語学生に対する一般学生の気持

反 応	対象者	
	女子大生	短大生
私語をやめて欲しい	36	35
腹がたつ、いらいらする	38	33
気にしないようにする	22	24
気にならない	12	13
自分もしゃべりたくなる	6	6
自分のことを反省する	13	13
教師が気の毒になる	47	47

注1. 数字は%

2. 複数回答

第4表 私語学生に対する一般学生の対処法

対処法	対象者	
	女子大生	短大生
気にしないようにする	55	55
友人に相談する	23	25
授業に集中する	21	20
がまんする	20	18
授業を放棄する	15	19
視線で注意する	11	10
自分の席を移動する	5	3
身ぶり、手ぶりで注意する	3	2
言葉で注意する	3	1

注. 第3表と同じ

気持等について調査した武庫川学院教育研究所も、「研究レポート」(以下「研究レポ」と略記する)において、第3・4表のような結果を掲載している。^⑬

上記資料から、一般学生は、a. 私語及び私語学生に対して不快感を持っていること。b. それらへの対応が消極的であること。c. その背景に集団あるいは仲間からの有形、無形の圧力がかかっているなどのことが知られるのであるが、女子学生に私語の多い理由はこれら以外にもありそうである。以下それらについて考えてみる。とりあげたいと思う項目は、a. 受講姿勢、b. 情報交換、c. 暇つぶし、d. 女性は会話を好むの4つである。

a 受講姿勢、特にノートのとり方

私語をする学生にその理由を尋ねると、きまったように「講義の中に出てきた言葉の意味や字がわからなかったので、隣席者—友人—に聞いていた」という。

たしかに講義の中でわからない字の出る場合もあるであろう。そんな時筆者などは、わからない字をそのままにしてノートを続け後刻その補足につとめたものである。ところが彼女らの多くはそのような方法をとらないで、その場で補足・訂正しようとする。

この間の女性の心理について水野綾子は^⑭、「女の子は、成績や単位と結びつけて考えるなど現実的な発想をしがち。加えて几帳面。従ってノートなどもキチンととる」だからわからない字をそのままにしておけない。といって教師に質問することは、「自分の能力のほどを他に示すことになるので恥ずかしい」から隣席者に尋ねる。尋ねられた方も、「目の前にいる相手と軋轢あつれきを起こしたくないので教えてやる」ことになるという。

そのためであろうか女子高校生たちも「授業中のおしゃべりは必要」^⑮と私語を肯定しており、その比率も男子の29%に対して女子のそれは51%と高い。

b 情報交換

前掲の水野綾子は「大学生の間は、自分たちに必要な情報だけで生きられる」「大人には関係のない情報こそ彼ら仲間うちのコミュニケー

ションには不可欠である」と述べ、さらに「女の子の仲良しグループは、助けたり助けられたり、情報を与えたり与えられたりする一種の互助会のようなものだ」といっているが、まさにその通りで、筆者の調査でも、自由着席式講義における隣席者の95%が友人であり、私語の内容の大半も情報交換であった。

以上のことは、声なき私語ともいえる落書き調査の結果からも立証できる。すなわち「なぜ机上に落書きをするのか」という質問に、16%の者が情報交換、15%の者が漢字やスペルの照会と答えている。また、落書きの場所が教室の後列窓側36%、同廊下側18%という順であった。

そんなことから「教室の前の方は講義を聞く人。中は寝る人。後ろは私語して騒ぐ人」^⑯などのセリフが聞かれることになるのであろう。

c 暇つぶし

ある女子大学生は、「大学には、勉強するために来ている学生と、なんのために来ているのか全然わからない学生との差がすごくある」^⑰と述べているが、女子短大生の場合も例外ではなさそうである。

このような学習意欲の低い学生が存在する背景として前記「研究レポ」は、女子短大生の場合、在学生の中に、本当は四年制大学に進学したかったという者が31%、初めから進学を希望していなかった者が2%いること。授業に対する満足度において、一貫して不満足30%（数字は複数回答、「研究レポ」のデータに共通）を含めなんらかの形で不満を持っている者が64%いること。講義の内容に興味や関心のない者が86%。そのためか講義を聞く気になれない者70%。ノートをとる気になれない者が28%いたなどのことを指摘している。

以上のことは、筆者の「なぜ講義中に落書きをするのか」という質問に対する結果からもうなづける。

いずれにしても、学習意欲の高くない者と長い講義時間、講義内容と暇つぶしと私語との間に相関があることだけは確かなようである。

d 女性は会話を好む

前記「研究レポ」は、女子学生自身があげる

私語理由として「とにかく話がしたいので」44%、「休憩時間中の話の続きがあったので」42%だったといい、また、前記「女子高校生白書」^⑤も、女子生徒の63%が「おしゃべりは楽しい」といっているのに対して男子のそれは22%であったと述べている。

このように女性は、男性よりも他人との会話を好むようである。

なお、女性が会話を好む背景には多くの理由が存在し、しかもそれが、女子学生の私語発生に関係していると解される点よりして検討及び記述が必要と考えるが、紙幅の制限もあるのでここでは、女性のおかれている生活環境。人づきあいに気を使う。会話が得意。ストレス解消などの項目をあげておくに止める。

7 私語対策

いままで私語の発生を、仲間集団とのかかわりを中心に考えてきたが、私語発生の要因としてはこれらのほかに、例えば自己中心主義の横行。不本意入学者の増加。必修科目が多すぎる。教師の姿勢や指導技術等々が、また、その対策についても多くの方法があげられようかと思うが、そのいずれもが紙幅の関係でふれることができない。

幸い前記「研究レポ」にそれらのことが詳しくふれられているのでそれにゆずり、ここでは筆者が行っている防止策の一端を列挙することにする。

なお、末尾に、筆者が「研究レポ」より抜粋の上作成した「教師及び学生があげる私語の理由」、「教師による私語防止策」、「学生が指摘する私語のない授業の特徴」を表示しておいたので参照されたい。

筆者が行っている私語防止の方法は

(1) 最初の講義のときに、私語が排除されなければならない理由を十分説明する。

違反した者は図書館において自習し、当該講義終了時にレポートを提出させる旨約束させ、必ずそれを実行する。

なお、提出したレポは添削の上早く返却

する。

(2) 講義のときは指定の席に着席させる。ただし、学生の名前を覚えた後は自由着席。

この方法には、学生の名前が覚えられる。出席点呼の要がないなど多くのメリットがある。

(3) 講義開始の時間を厳守する。

(4) 講義は口述式。口述後コメントを加え、さらに質疑及び隣席者と相談できる時間を与える。

(5) 合併形態の講義のときはマイクを使用する。

(6) 期末試験のとき、講義に対する感想等は無記名で提出させその後の参考にする。などがその主なものである。要は講義内容の充実と、口ではなく実践が必要ということになりそうである。

おかげで、現在のところ私語は少ない。

むすび

真理の究明が問題の解決につながるとの意気込みをもって数年来、女子学生にみられる私語の問題に取り組み、考察につとめてきた。

その結果、私語が個人レベルよりも仲間レベルにおいて発生している場合の多いこと、したがってその対策も、集団力学を考慮したものでなくてはならないとの感を強くした。

そんな意味において、本論よりは逸れると思われるようなデータを計上する一方で、問題点とおぼしきものをも提起してきたつもりである。

しかし、提起した仮説の検証は未だ十分とはいえない。今後ともその補完につとめたいと考えているが、単独でのそれは容易でない。関心を持たれる人々による追試、あるいは御批判を希望して止まない。

最後に、本研究にあたり何かと御協力いただいた岐阜経済大学・教授 山本厚男、本学心理学研究室・助教授 小野寺孝雄、同図書館員、同幼児教育研究室・遠藤圭子の各氏に対し、紙面をかりてお礼申し上げます。(H4.10.20)

第5表 教師および女子短大生があげる私語の理由

区 別	主 なる 具 体 例		
	(非)常勤講師 (245人)	学生 (720人)	
授業の内部要因	講 義 内 容	興味や関心が持てていない 42 おもしろくない 17 わからない 14	興味や関心が持てない 86 平凡すぎる 20 難しすぎる 17
	受 講 動 機	学生としての目的意識が不足 21 学ぶ自覚の欠如 20 不本意出席・履修 37 学力不足 9	単位取得のためだけ 79 出席するためだけ 44
	教師のパーソナリティ	魅力不足 29 熱意不足 20 教師のにらみがきかない 13 学生を理解しようとしていない 4	ユーモアに欠ける 50 親近感がない 42 厳しさが無い 34 熱意に欠ける 16
	授業設計・計画	授業計画の不備 56 座席が自由 39	講義のテーマが明らかでない 52 教科書を使わない 27 教科書ベッタリ 22 講義の準備不足 13
	教 授 技 術	教え方全般に力量不足 40 話術に欠ける 23 学生を無視している 15 板書技術の不足 13 授業にリズムがない 10	授業に変化が乏しい 44 講義の要点がわかりにくい 44 声が小さい 38 板書が下手 35 話すペースが早い 21 具体性に欠ける 18
	集 団 過 程	集団心理 40 教師が注意をしない 11 教師と学生の相互交流不足 26	教師が一方向的に話す 85 学生を無視 25 リラックスした雰囲気がない 13 教師が特定の学生を相手に話している 7
	学 生 の 意 欲	学習意欲の欠如 40 忍耐力不足 39 マナーの欠如(受講態度) 18	講義を聞く気になれない 70 ノートをとる気になれない 28 以前と学習意欲変わらず 20
	評 価	試験制度、単位認定の在り方	聞いていなくても単位がとれる 65 平常点を評価しない 31
授業の外部要因	ク ラ ス 編 成	多人数授業 79	その他 クラス全体が騒々しかった 49 とにかく話がしたかった 40 休み時間の話の続き 27 休み時間まで待てない 25 その時しか友だちと話せない 9
	広義のカリキュラム	90分授業 31 授業時間と休憩時間の観念希薄 19	
	教 室 環 境	座席の配置 25 隣室などから音がもれてくる 25	
社会環境要因	教 育 問 題	大学の大衆化 47 大学のサロン化 13 レジャーランド化 11 小・中・高の問題 23 私語の習慣(一般)化 21	
	社 会 問 題	TV世代 21 自己中心的 13 家庭のしつけ不良 17	
	自 然 環 境	むし暑い日、休日明け	

注1. 数字は、いずれも項目毎の%

2. 複数回答

第6表 教師による私語防止策

		項 目	具体例の主なもの
未 然 防 止	対	学生への働きかけに関するもの 集団過程に関するもの 18	問題を出して学生にあてる。私語をしている学生にあてる。教師に対する質問を奨励する。 学生の反応を見ながら説明する。 学生の間に入って説明する。 課題を与えて学生を多忙にさせる。
		学生への配慮に関するもの 4	
		課題達成に関するもの 2	
		教師のパーソナリティに関するもの 22	
	自	授業内容に関するもの 18	魅力ある講義内容にする（身近な問題や具体例をあげる） 授業の導入を工夫する。
		教え方の技術に関するもの 9	授業に変化をもたす。話し方（スピード、私語したら小声で話す） テキストを音読する時は起立させて行う。
	学 生	私語する学生への教育的指導に関するもの 注意 34	私語した者に対する処置を学期の始めにとりきめておく。静かにするよう注意する。私語者を名指しの上注意する。
		退出を求める 6 座席指定をする 27 授業開始時の工夫 24	
		評価に関するもの 19	静かになるまで講義しない。
			適時ノートやレポを出させる。 平常点を斟酌する。私語者は欠席扱いにする。
発生時の処置	状況把握……講義中断 学生をしばらく見守る あきらめる 注意する……注視 指を口にあて注意する 全体に注意する 机の所まで行って注意 説諭 教え方の工夫……板書を多くする 考えさせる授業をする 学生参加の授業をする 処罰……退出を求める 座席を移動させる 講義を打ち切る		

注. 数字は、いずれも%

第7表 学生が指摘する私語のない授業の特徴

項 目	%
厳しくてこわい	23.4
講義に興味や関心がもてる	21.0
少人数での授業	13.9
学生参加の授業(発表、討論etc)	10.4
講義がおもしろい	11.6
教師が私語する学生を注意する	9.9
作業・課題などが多くて忙しい	7.2
教師にユーモアがある	6.9

引用文献

- 1 新堀通也 「大学における私語の問題」『武庫川学院教育研究所研究レポート』第4号 同研究所発行 1990
- 2 前掲1に同じ
- 3 佐藤毅 「社会心理学研究への若干の提言」『さいころじすと』第24号 1991
- 4 島田博司 「授業中の私語」片岡徳男ほか編『大学授業の研究』玉川大学出版部 1989
- 5 「女子高校生白書」Ptite Seven 4月号 小学館 1990
- 6 山下俊郎 「児童心理学」全国社会福祉協議会編・発行 1990
- 7 田辺敦子 「遊びと対人関係の発達」『児童心理学』全国社会福祉協議会編・発行 1991
- 8 川瀬啓子 「女子短期大学生の仲よし関係」日本心理学会第52回大会発表論文集 1988
- 9 田中熊次郎 「新訂児童集団心理学」明治図書 1975
- 10 Festinger 齊藤勇 「対人社会心理学重要研究集—対人魅力と対人欲求の心理—」誠信書房 1987
- 11 小林良夫 「増長型非行」春秋社 1984
- 12 天沼香 「女子大生考現学」海越出版社 1990
- 13 前掲1に同じ
- 14 水野綾子 「ごきげんようお嬢さん」評論社 1988
- 15 前掲5に同じ
- 16 片岡徳男 「月間進研ニュース中学版」新堀通也ほか編『武庫川学院教育研究所研究レポート』第4号 同研究所発行 1990
- 17 前掲12に同じ
- 18 前掲5に同じ